

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想〈中・道徳〉

特別研修員 道徳 篠崎 巧（中学校教諭）

主題名 個性を尊重する社会
内容項目 C- (11) 公平、公正、社会正義
教材名 『リスペクト アザース』（日本文教出版）第2学年

ねらい 「僕」が日本に帰ってきて海外との違いに葛藤する場面に基に、「ほかの人のことを尊重する」とはどういうことなのかを考えることを通して、誰とでも公正、公平に接することができる社会の実現に努める心情を育てる。

授業構想

導入では、世界で差別と戦ってきた人の映像を電子黒板で提示し、それでも差別がなくならない世界において「差別をなくすためにはどうしたらよいか」とめあてを提示します。展開では、日常生活の中で差別をあまり意識していない生徒が『リスペクト アザース』を読むことで、アメリカで大切にしている「ほかの人を尊重する」という言葉を知り、日常生活の中で互いに尊重し合えない雰囲気があるということに気付かせます。中心発問では、ほかの人を尊重するとはどういうことなのか、自分の考えをもち意見を交流させることで、差別のない社会にするために大切なことを多角的・多面的に考えることができますようにします。終末では、授業を振り返り、今までの自分とこれからの自分について考えることで、誰とでも公正、公平に接することができる社会の実現に努める心情を育てます。

過程

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

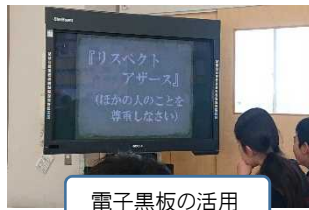
導入

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ○世界で差別と戦ってきた人々を知っていますか。どのような差別と戦ってきたのでしょうか。
 ・「差別と戦ってきた人々」を電子黒板で具体的に紹介し、問題意識をもって授業に取り組むことができるようにする。

めあて：差別をなくすためにはどうしたらよいでしょうか

展開

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 ・電子黒板を使ってあらすじをつかまえるようにし、大切な言葉の意味を確認する。
 ・電子黒板で、あらすじや大切な言葉を確認する。



電子黒板の活用

- 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ○『リスペクト アザース』という考え方を知った「僕」は、日本に帰ってきて生活する中でどう思ったのでしょうか。

- ◎『リスペクト アザース（ほかの人を尊重する）』とはどういうことなのでしょうか。

- ◇「本音で何でも話し合う」という意見と「相手の意見を否定しない」という意見は矛盾しませんか。
 ・補助発問を基に意見を交流する。



意見を交流している様子

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。
 ○差別をなくすためにはどうしたらよいでしょうか。
 ・導入時に実感として理解できなかった差別の問題が、普段の中学校生活の中にもあるということを踏まえ、どうすればよいかを考え、自分の言葉で表現する。

終末

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。
 ○これから、どのように生活していけば、よりよい社会を作ることになるでしょうか。

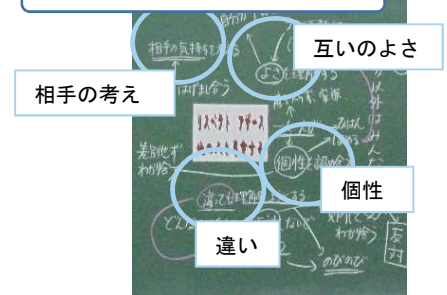
道徳的諸価値についての理解を深めるために

- 生徒の意識と教材文で語られる「僕」の意識の差を生かして「みんなはどうですか？」と問うことで、自分の生活を振り返らせ自分事として問題意識をもって考えられるようにする。

物事を広い視野から多面的・多角的に捉え、道徳的価値について考えを深めるために

- アメリカでは、お互いの違いや努力を認め合うことを大切にしていること、日本では差別をしている自覚はなくても互いに認め合えない雰囲気があることを確認する。
 ◎「『リスペクト アザース』の世界はここにはなかった」と考えた「僕」の事例を基に、相手を尊重するとはどのようなことなのかを自分の言葉で表現できるようにし、交流することでさまざまな考え方に触れられるようにする。

生徒の意見を分類し、整理した板書



- ◇生徒から出される意見の中から矛盾している意見を捉え、補助発問として生徒に投げ掛ける。

よりよい生き方への思いや願いを深めていくために

- 授業を振り返り、改めて「自分はどうか？」と問い掛けることで誰とでも公正、公平に接しようという自覚を促す。

指導例：主題名 個性を尊重する社会 内容項目 C- (11) 公正、公平、社会正義
 教材名 『リスペクト アザース』(日本文教出版) 第2学年

ねらい：「僕」が日本に帰ってきて海外との違いに葛藤する場面を基に、「ほかの人のことを尊重する」とはどのようなことなのかを考えることを通して、誰とでも公正、公平に接することができる社会の実現に努める心情を育てる。

主な学習活動 (○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
 ○世界で差別と戦ってきた人々を知っていますか。どのような差別と戦ってきたのでしょうか。
 S：キング牧師 S：マンデラ大統領 S：人種差別
 T：たくさんの人が差別と戦ってきましたが、まだなくなっていない。
めあて：差別をなくすためにはどうしたらよいでしょうか。

- 2 教科書の教材文の範読を聞く。
 ・あらすじや大切な言葉について電子黒板を用いて視覚的に捉えさせて確認する。
- 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 ○『リスペクト アザース』という考え方をアメリカで知った「僕」は、日本に帰ってきて生活する中でどう思ったのでしょうか。
 S：アメリカでは考え方の違いがあって当たり前だし、ミスしてもお互いに認め合う雰囲気がある。
 S：日本では相手のことを認められず、息苦しい感じがする。差別だと思っていなかったけどひどいことをしている。
 T：日本には表面上の差別はないと書いていますが、「僕」には日本での生活の中でたくさんの違和感があったようです。
 ◎『リスペクト アザース (ほかの人を尊重する)』とはどのようなことなのでしょう。
 S：相手の気持ちを考えて、ミスをしたとしても励まし合うこと。
 S：お互いの個性を認め、本音で何でも話し合うこと。
 S：お互いのよさを認め合い、うまくできたことを共に喜ぶこと。
 S：考えが違っていても否定しないで理解しようとする。
 ◇「本音で何でも話し合う」という意見と「相手の意見を否定しない」という意見は矛盾しませんか。
 S：どちらがよいというのではなく、相手の気持ちを考えることが大切。
 S：否定し合っても、それを受け入れられる関係ならばよいと思う。
- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。
 ○差別をなくすためにはどうしたらよいでしょうか。
 S：相手の話をじっくり聞いて、お互いを認め合いたい。
 S：相手のよさを見付け、悪口を言っていたら注意したい。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。
 ○これから、どのように生活していけば、よりよい社会を作ることになるでしょうか。
 S：互いの違いを尊重し合っていけば、よりよいクラスになる。
 S：身近な友達の個性を尊重することが、よりよい社会を作る第一歩となる。

指導のポイント

【問題意識をもつ】

- ・導入では「差別と戦ってきた人々」を電子黒板で紹介し、「みんなはどうですか？」と問うことで問題意識をもって授業に取り組むことができるようにする。

【めあての設定】

- ・世界の差別について確認した後、「差別をなくすためにどうしたらよいか」と投げ掛けることで、自分の生活を見直し、自分事として問題意識をもてるようにする。

【中心発問について】

- ・教材文の「僕」が感じた日本での様々な違和感をきっかけにして、「ほかの人を尊重する」とはどのようなことかを話し合わせる。板書では、「相手の考え」「個性」「互いのよさ」「違い」のキーワードに意見を分類、整理して板書し、比較させる。そして多面的・多角的な見方に気づき、学習のめあてについても一度考える際に生かせるようにする。

【補助発問について】

- ・「本音で何でも言う」と「相手のことを否定しない」という意見を取り上げて比較させ、「相手のことを考えている」ことが大切であることを押さえられるようにする。

【振り返り】

- ・公正、公平な社会を作っていくために、自分事として考え、身近な友人との人間関係を見直そうという心情を育む。

道徳科学習指導案

令和元年6月 第2学年 指導者 篠崎 巧

1 主題名 個性を尊重する社会 内容項目C-(11) 公正、公平、社会正義

2 教材名 「リスペクト アザース」(出典:日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

「公平に接する」とは、自分と同様に他者も尊重し、誰に対しても分け隔てなく接するということがある。人は他者との関わりにおいて生きるものであり、よりよく生きたいという願いは、差別や偏見のない社会にしたいという思いにつながる。よりよい社会を実現するためには正義と公平さを重んじる精神が不可欠である。物事の是非を見極めて、誰に対しても公平に接し続けようとする心情や、自他の不公正に気付き、それを許さないという断固とした姿勢と、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうという心情を育てたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は積極的に挙手をしたり、問い掛けに対して返答したりと、伸び伸びと授業に取り組んでいる。班活動では、友達の意見をメモしながら受容的に聞くことができる。しかし、1小学校から1中学校へ進学してきているため、互いの印象や交友のグループが固定化している様子も見られる。そこで、もう一度友達との関わりを振り返り、固定化している関係を見直すことで、互いの個性やよさに気付き、偏見による差別をなくし、誰とでも公正、公平に接することができる社会の実現に努めようとする心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は海外での生活を通して『リスペクト アザース(ほかの人のことを尊重しなさい)』と習ってきた少年が、表面上の差別のない日本で他の人と大きく違わないように生活する姿や、相手の気持ちになれば絶対言えないようなひどい言葉を言い合っている姿を見て、個性を尊重して差別のない社会にするためにはどうしたらよいかについて考えた人権作文である。アメリカから帰ってきた少年の目から見た日本の友人関係について考えることで、当たり前の中の生活にある、相手を認められない心を見つめ直し、自分事として差別という問題について向き合うことができると考える。また、相手との個性や違い、相手のよさや努力を認めるといった公正、公平、社会正義について象徴的に表している『リスペクト アザース(ほかの人のことを尊重しなさい)』の意味を考えることで、誰とでも公平に接し、差別のない社会の実現に努めようとする心情を育てたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・導入では「差別と戦った人々」を電子黒板で紹介し、「みんなはどうですか?」と問うことで、問題意識をもって授業に取り組むことができるようにする。また、人種差別と教材文の日本での生活の違いを生かして、「差別をなくすためにはどうしたらよいか」を自分事として考えられるようにする。

○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・人と「違う」ことを敬遠する心情を受け止め、それでも「僕」が「互いを尊重する」ことができていることへの思いについて考える。そして、互いに尊重し合うとはどのようなことなのかについて考えたことを交流し、多角的・多面的に考えられるようにする。
- ・中心発問の場面で、自分が人と違って嫌だと思った経験や、違うことが不安で意見が言えなかったことなど、普段の生活を振り返られるようにし、自分事として考えることができるようにする。
- ・学習のめあてについても一度考える場面では、授業の導入時に実感として理解できなかった差別の問題が、中学校の実生活の中にもあるということを踏まえて、差別をなくすためにはどうしたらよいかを考えさせ、中心発問で考えた意見を生かし自分事として考えられるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・授業を振り返り「自分はどうですか?」と問い掛け、自分事として友達との接し方などの今できることを考える場面を設定することで、誰とでも公正、公平に接することができる社会の実現に努めようとする心情を育てる。

5 本時の展開

(1) ねらい

「僕」が日本に帰ってきて海外との違いに葛藤する場面を基に、「ほかの人のことを尊重する」とはどのようなことなのかを考えることを通して、誰とでも公正、公平に接することができる社会の実現に努める心情を育てる。

(2) 準備

教師：ワークシート、電子黒板

(3) 展開 (○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ○世界ではどのような差別と戦ってきたのでしょうか。</p> <p>めあて：差別をなくすためにはどうしたらよいでしょうか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 世界では多くの差別が行われ、それではいけないと信じ、戦ってきた人がいるんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界で差別と戦ってきた人々を電子黒板で紹介し、「みんなはどうですか？」と問い掛けることで、問題意識をもつことができるようにする。
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○『リスペクト アザース』という考え方をアメリカで知った「僕」は、日本に帰ってきて生活する中でどう思ったのでしょうか。</p> <p>◎『リスペクト アザース（ほかの人を尊重する）』とはどういうことなのか。 【交流の流れ】 ・自分で考える ↓ 近くの席の人と交流する ↓ 全体で交流する</p> <p>◇「本音で何でも話し合う」という意見と「相手の意見を否定しない」という意見は矛盾しませんか。</p>	5分 25分	<ul style="list-style-type: none"> アメリカでは考え方の違いがあつて当たり前だし、ミスしてもお互いに認め合う雰囲気がある。 日本では相手のことを認められず、息苦しい感じがする。差別だと思っていなかったけどひどいことをしている。 相手の気持ちを考えて、ミスをしてもしらまじ合うこと。 互いの個性を認めた上で、本音で何でも話し合うこと。 互いのよさを認め合い、うまくできたことを共に喜ぶこと。 考えが違っていても否定しないで理解しようとする。 どちらがよいというのではなく、相手の気持ちを考えることが大切。 否定し合っても、それを受け入れられる関係ならばよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> あらずじや大切な言葉を電子黒板を活用して視覚的に捉えさせて確認する。 アメリカと日本を比較し、アメリカではお互いの違いや努力を認め合うことを大切にしていること、日本では差別をしている自覚はなくても互いに認め合えない雰囲気があるということを確認する。 日本で「僕」の「ここにはなかった」と考えた事例を基に、『リスペクト アザース』とはどのようなことなのか考えるよう促す。 生徒の考えを整理し、視覚的に捉えることができるように「相手の考え」「個性」「互いのよさ」「違い」の四つに分けて板書する。 「本音で言い合う」と「相手のことを考えて批判しない」の矛盾点を指摘し、話し合わせる。 自分を振り返るためのゆさぶりのある補助発問を行い、本音を意識し、相手を尊重するとはどういうことかについて考えを深められるようにする。 中心発問や補助発問での話合いを基に、普段の生活の中で差別をなくすためにできることを考えさせることで、自分事として捉えられるようにする。
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについても一度考える。 ○差別をなくすためにはどうしたらよいでしょうか。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> いつも一緒にいる人以外の人の考えをじっくり聞いて、お互いを認め合いたいな。 相手のよさを見付け、友達が悪口を言っていたら、注意して止めてあげよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心発問や補助発問での話合いを基に、普段の生活の中で差別をなくすためにできることを考えさせることで、自分事として捉えられるようにする。
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○これから、どのように生活していけば、よりよい社会を作ることになるのでしょうか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> 互いの違いを尊重し合っていけば、よりよいクラスになる。 身近な友達の個性を尊重することがよりよい社会を作るための第一歩になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、友達への接し方など今後の自分の生活について考えられるようにする。

(4) 評価の視点

- 主人公が日本と海外の違いに葛藤する場面を基に「ほかの人のことを尊重する」とはどのようなことなのかについての考えを交流することを通して、公正、公平について多角的・多面的な見方へと発展しているか。
- 本時の振り返りをする場面で、誰もが公正、公平に接することができる差別や偏見のない社会をつくるためにはどうしたらよいかについて、普段の生活との関わりの中で考えを深めているか。